

“原発止めるまで闘う！”



11.6日比谷

福島と連帯し6000人!

「許すな再稼働!」「子どもたちを放射能から守ろう!」
「震災解雇・非正規雇用化反対!」 11月6日、この呼びかけのもと「反原発・反失業」を掲げ、日比谷野外音楽堂に5950人が集まりました!

「原発再稼働のためなら真実も隠し、子どもを被爆させても構わない」「命より金」「1%の富裕層のために99%が犠牲に」こんな社会のあり方を根本から変革し、再稼働を絶対に阻止しようという闘いの始まりです。

この日は福島を先頭に、全国、さらにはアメリカや韓国の労働組合も集まりました。被災地と連帯し、世界とつながって行動が始まっています! 私たち学生も、福島大の仲間と共に、再稼働とめ、私たちのキャンパスと未来を守るために、声をあげ、行動を開始しよう!



11月6日、日比谷野外音楽堂から出発した全学連デモ隊の様子

全学連委員長 斎藤郁真君(法政大)のアピール



全学連はこの間、学生として福島との連帯をかけてさまざまな行動をうちぬいてきました。10月21日福島大学現地行動、28日文部科学省への申し入れ行動などなど。そして、今日この場に福島大学の学生が来ていることをご報告したいと思います。

大学から御用学者を追い出し、二度と原発推進のふざけた研究をやらせない。これこそが、私たち学生の福島の怒りとの連帯だと考えます。学歴だけのふざけた政治家連中がいくらごたくを並べようが、この社会を動かしているのは労働者です。私たちは学歴だけの連中にはなりません。私たち学生の未来は、労働者との連帯の中にあります。ぜひ皆さん、共に闘いぬきましょう。

全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 050-3036-6464 mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp/

呼びかけ団体より 国鉄千葉動力車労働組合委員長 田中康宏さん



大震災と原発事故はこの社会の支配構造の腐り切った本質をすべて暴き出しました。放射能汚染が子どもたちの生命を日々むしばみ、農漁業に壊滅的な被害をもたらし、労働者から職を奪い、今も数十万の避難民がさまよっています。

しかし、この期に及んでも政府と財界はなお原発を推進しようとしています。200万福島県民は見殺しにされようとしています。さらには、膨大な労働者に襲いかかる解雇・非正規職化攻撃、社会保障や教育・医療の解体、労組幹部たちの腐敗、すべてが激しく衝突し、沸騰し煮えたぎっています。

情勢は一変しました。怒りの声は社会の隅々に満ち、支配階級は、「生き抜くために人生をかけて闘う」と固く決意した無数の人びとを生み出してしまったのです。今こそ闘う労働組合をわれわれ自身の手に取り戻さなければなりません。

財界は、「復興」のかけ声のもとで、道路、空港、港湾、上下水道、交通、医療・福祉、教育等、被災地を丸ごと民営化する復興プランを発表しました。被災地を労働基準法適用除外の特区内にしようという議論までされています。大震災を千載一遇のチャンスとして、全面的な新自由主義攻撃を社会全体に貫徹し、労働時間や最低賃金の規制も、権利も団結権もない「資本の天国」をつくらうというのです。政府の号令一下公務員労働者の賃金が下げられ、360万人の首切り・非正規職化が強行されようとしています。

非正規職問題は労働運動にとって最大の課題です。しかし、それに有効な反撃を行うことができず、際限ない後退を続けてきたのがこの二十年余りの現実でした。その出発点が国鉄分割・民営化攻撃でした。以降、1千数百万人も労働者が非正規職に突き落とされたのです。今や日本の非正規職労働者の比率は40%に迫り、日本は世界最悪の「非正規国」に転落しようとしています。

だからこそわれわれは、国鉄分割・民営化問題を絶対にあいまいにはしないと訴え続けてきました。しかし、4者4団体は、今年、24年間闘い続けられてきた1047名解雇撤回闘争の旗を降ろし、闘争終結を表明しました。労働運動の深刻な危機が生み出されています。

JRはこの10年、あらゆる業務の全面的な外注化攻撃を進めています。鉄道業務を数百社の下請け・孫請け会社にバラバラに外注化しようというのです。膨大なJR労働者の非正規職化攻撃です。われわれはこの攻撃に立ち向かい、激しい組織破壊攻撃との闘いを貫いて10年間にわたって外注化を止めてきました。

「民営化・外注化」は新自由主義の核心をなす攻撃です。しかし、それに真正面から立ち向かい、非正規職化を止めた闘いはまったくと言っていいほどないのが現実です。それどころか、労働組合が容認することを通して世の中に偽装請負が蔓延（まんえん）する事態にまで至っているのが現実です。これでは「労働運動の復権」など空語です。

われわれは、これに立ち向かい、外注化を阻止する具体的な闘いを実現することで、階級的労働運動の展望と可能性を示したいと考えました。この闘いの渦中で、若い仲間たちが動労千葉に結集し始めています。今年10月の外注化提案も阻止しました。そしてわれわれは、昨日から基地大再編・組織破壊攻撃に対する長期に及ぶであろう指名ストに突入しています。

怒りの声は世界中で燃え上がっています。民主労総の非正規職撤廃の闘い、ILWUローカル21の穀物メジャーと政府による労組破壊攻撃との闘い、燃え広がるウォール街占拠闘争、ギリシャを先頭に空前の規模のゼネスト。日本でも9月19日、「原発を直ちに止める」と明治公園を6万人の怒りの声で埋め尽くしました。資本主義の危機を突いて時代は動き始めました。

今求められているのは労働運動の変革です。闘う労働組合をよみがえらせることです。

われわれ自身の手で、この困難な仕事をやりぬくことです。可能性に満ちた時代です。今ならできます。

全国の職場・地域から闘う労働運動をつくり出そう。今日の集会をその新たな出発点にしよう！



子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク世話人 佐藤幸子さんのアピール

私は、母として、女として、もう黙っていられないという、福島の人たちと一緒に、27日から経済産業省に座り込みをしました。福島の女たちは怒っています。7ヶ月間、本当につらい思いでした。その思いのたけをぶつけて、経済産業省前に座り込みました。

その座り込んでいる間に、こともあろうにベトナムへの輸出を調印する。全国の女たちが福島の女たちにつながって座り込んでいる間に、玄海原発を再稼働させる。こんなひどいことを、もう許してはおけないと思います。

私はこの3.11の後に、最後のお墓参りをしてきました。母は20年前に亡くなっています。その母に、原発を止めるまで二度とお墓参りにきませんと宣言してきたんです。もうこれ以上は、引き下げられません。世界中の人たちとつながれば絶対実現できると思います。どうぞよろしくお願いします。

写真：11.6集会でアピールする福島・宮城の方たち（左上）
「怒 福島隊」を掲げたデモの様子（左下）